



第3期さんだっ子 令和4年度  
～令和8年度

# かがやき

教育プラン 三田市教育振興基本計画



三田市教育委員会



### 3 基本施策の展開

#### 1 「確かな学力」の育成

変化の激しい社会において、自分の人生を切り拓いて生きていくためには、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力が、偏りなく育成できることが重要です。

そして、こうした資質・能力の育成に向けては、個別最適な学び<sup>※</sup>と協働的な学び<sup>※</sup>を一体的に充実するとともに、教科等をこえた教科横断的な学習や探究的な学習の過程を一層重視することが求められます。

また、教職員は、学習指導要領<sup>※</sup>を深く理解するとともに、デジタル技術の活用促進など、子どもたちのさらなる学力向上に向けた指導力の向上が必要です。

さらに、入学・進学等、接続期の子どもの心理的不安を和らげ、学び意欲や自尊感情<sup>※</sup>を高めるため、保幼・小・中の期間を見通し、育ちと学びの連続性<sup>※</sup>を重視した連携教育の一層の充実を図る必要があります。

#### (1) 子どもの可能性を拓く資質・能力の育成

##### 現状と課題

- 全国学力・学習状況調査<sup>※</sup>において、本市では、すべての教科における平均正解率は、全国平均を上回っています。子どもたちの学力のさらなる向上をめざし、調査に見られる課題や日常の状況を把握・分析し、課題の改善に向けて組織的に取り組む必要があります。
- 学習指導要領<sup>※</sup>に基づき、社会に開かれた教育課程<sup>※</sup>の実現、カリキュラム・マネジメント<sup>※</sup>の推進、主体的・対話的で深い学び<sup>※</sup>の実現に向けて研修体制を構築し、教職員の資質向上を図ることが必要です。
- GIGAスクール構想<sup>※</sup>の実現に向けて全児童生徒1人1台のタブレット端末<sup>※</sup>の配布をはじめ、ICT<sup>※</sup>環境が整備されています。従来の三田の教育にデジタル技術を効果的に取り入れることで、個別最適な学び<sup>※</sup>と協働的な学び<sup>※</sup>を一体的に充実し、各教科にわたる子どもたちの資質・能力を育成することが求められます。
- 一斉授業か個別学習か、デジタルかアナログか、遠隔・オンラインか対面・オフラインかなど二項対立に陥るのではなく、教育の質の向上のために、発達の段階や学習場面等により、どちらのよさも適切に組み合わせ活かしていくことなどが必要です。

- 県の「ひょうごがんばり学びタイム」事業の継続的な取組により、基礎学力向上や学習習慣の定着に効果を上げています。また、全国学力・学習状況調査※において、本市では、「自分で計画を立てて勉強している」と答える子どもの割合は毎回高く、引き続き、学習内容・習慣の確実な定着を図っていく必要があります。
- 「理科作品奨励事業」等の事業を通じて、三田の理科教育への関心は高まりを見せています。今後は、「こうみん未来塾※」や市内の関係施設や団体とのコラボレーションを図るなど三田の特色を活かした理科教育を一層充実する必要があります。
- 全国学力・学習状況調査※において、本市では、読書が好きと答える子どもの割合が年々増加しています。また、国語の結果については全国平均を上回っています。引き続き、読書活動等により言語活動の充実に努めることが必要です。
- 令和2年に市民・教職員及び小中学生を対象に実施した「三田市の教育に関するアンケート調査」(以下、「アンケート調査」という。)では、子どもの教育について関心のあることとして、【市民問7】では「子どもの基礎学力」とする回答の割合が55.8%と最も高く、次いで「主体的に学ぶ力」となっています。また、今後は【市民問10】「①自ら学び、考え、主体的に行動する力」が重要とする人(5段階評価のうち5と4を合わせた人)が、94.8%となっています。

### 施策の方向

子どもたちが、基礎的な知識・技能を習得するとともに、習得した知識・技能と既存の知識を組み合わせ、社会における様々な場面で主体的に判断し、他者と協働して課題を解決していくことができる力を育成します。各教科等の指導に当たっては、デジタル技術を効果的に活用しながら、主体的・対話的で深い学び※の実現に向けた授業改善を推進します。

また、全国学力・学習状況調査※の結果分析等を基に、各校の子どもたちの学びの実現状況を把握し、教職員の指導改善につなげることやアプリを活用した、個人のスタディ・ログ(学習履歴や学習評価、学習到達度)の蓄積や把握による個別最適な学び※を支援するとともに、協働的な学び※の実現を図ることにより、確かな学力を育みます。

主な取組	取組内容	担当課
「学力向上指導改善プラン※」の実践	全国学力・学習状況調査※の調査結果や子どもの日々の学習や生活の状況に基づき、各学校が「学力向上指導改善プラン※」を策定し、カリキュラム・マネジメント※の充実と指導改善に向けた取組を実践する。	教育研修所
授業改善の促進	主体的・対話的で深い学び※の実現に向けた授業改善を図るとともに、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら知識を相互に関連づけて理解するなどの学習を展開することで、新しい時代に必要な資質・能力を育成する。	教育研修所
個別最適な学び※と協働的な学び※の充実	従前からの授業方法にデジタル技術を組み合わせ、個別最適な学び※と協働的な学び※を一体的に充実し、児童生徒が自ら問いをもち、他者との対話を通し、課題解決に向かう学習の充実を図る。	教育研修所
学力向上に向けた補充学習及び発展学習の充実	朝の学習タイムやひょうごがんばり学びタイム等の実施により、新学習システム推進教員※や地域人材等を活用し、補充学習及び発展学習の充実を図る。また、授業におけるデジタル技術活用を推進し、一人一人の興味関心や学習状況に応じて、主体的に学習を進め、個別最適な学び※を充実する。	教育研修所
「ひとり学びへの手引き※」の活用	「ひとり学びへの手引き※」等を活用し、小学校6年生時に身に付けておくべき「学び方」について、段階を踏みながら育成を図る。また、デジタル技術を含め、学びに必要な学習方法を子どもたちが主体的に選択し、自分らしい学び方を模索する資質・能力を養う。	教育研修所
理科教育の推進	問題解決の力を養うため、観察・実験、ものづくり等の体験的な学習活動を充実する。有馬富士自然学習センターや人と自然の博物館と連携し、教職員の理科教育に対する指導力向上を図るとともに、子どもが科学の素晴らしさや楽しさを体験する機会を充実する。	教育研修所
読書活動の推進	「さんだっ子読書通帳※」や「さんだ子ども読書の日※(毎月 23 日)」の取組を推進するとともに、学校司書※と教職員が連携し、学校図書館の活用を推進する。また、市立図書館と連携した取組を進めるとともに、ブックトークやビブリオバトルを通して、子どもの豊かな読書活動を充実する。	教育研修所 文化スポーツ課

## 9 子どもと大人の「学び」が循環する関係づくり

大人が培ってきた学習の成果や学びを通じた人とのつながりを、学校や地域社会に還元するとともに、子どもの教育に活かすことのできる循環型の生涯学習社会※の実現が求められています。

そのためには、大人の「学び」を子どもに活かす仕組みづくりや地域の大人と子どもをつなぐ人材の育成により、子どもと大人の学びが循環することが必要です。

また、子どもたちは、青少年期からの「学び」の機会の充実が必要であり、本市の豊かな自然環境や地域の歴史文化遺産、文化芸術などの豊富な資源を活用した学習活動を通して、子どもたちに多様な学習機会を創出することが重要です。

### (1) 学習成果を活かす仕組みづくり

#### 現状と課題

- 本市では、様々な「学び」の機会提供が行われていますが、培ってきた学習の成果を活かす機会が限られています。
- すべての人が生涯を通して活躍できるよう、さらに学習機会の充実を図るとともに、参加型学習や学び合いを通じて、地域人材の育成に取り組み、循環型の生涯学習社会※の実現をめざす必要があります。

#### 施策の方向

青少年期からの自主的な「学び」を支援するとともに、地域の大人が培ってきた学習の成果を子どもたちに活かすため、地域人材の育成や仕組みづくりに取り組み、循環型の生涯学習社会※の実現をめざします。

主な取組	取組内容	担当課
子どもの育ちを支える社会教育施設等の活用	地域の生涯学習※の拠点としての社会教育施設等を積極的に活用し、市民の自主的な学びを支援しながら、地域の人材育成を推進するとともに、学びの成果が次世代に還元されるよう仕組みづくりを進める。	文化スポーツ課
子どもの読書活動や調べ学習を支援できる人材育成の推進	図書館を拠点に、ボランティア希望者、保護者、学校関係者等を対象として、子どもの読書活動や調べ学習を支援できる人材の育成に取り組む。	文化スポーツ課
三田の自然を学び、活用するジュニアスタッフの育成	県立有馬富士公園の豊かな自然環境を活かし、人と自然の博物館と連携した、自然を学び活用するジュニアスタッフの育成を進める。	文化スポーツ課

## (2)多様な学習機会の創出

### 現状と課題

- 「こうみん未来塾※」では、地域や教育・研究機関(大学、博物館等)、企業、NPO法人、専門家と連携・協働し、子どもたちに「本物にふれる」多様な機会を提供しています。
- 社会教育施設の運営に、市民や事業者等の活力を導入し、民間のノウハウやネットワークを活かしながら、子どもたちの学びの充実を図っています。
- 本市には、有馬富士公園などの豊かな自然環境とともに、継承されてきた地域の歴史文化遺産や文化芸術活動も盛んに行われているなど、豊かな学習資源があります。また、大学生による学習支援など、子どもたちにとって自分たちのモデルとなる身近な環境もあります。

### 施策の方向

子どもたちに様々な学びと体験の機会を提供することで、「科学技術に親しみを感じる子」、「グローバルに活躍する気概をもつ子」、「チャレンジ精神旺盛な子」の育成を推進します。

また、地域の豊富な物的・人的な学習資源を積極的に活用し、多様な学習機会を創出することで、地域の自然、歴史・文化や芸術活動に親しみ、理解を深め、ふるさとを愛する心をもつ子どもを育てます。

主な取組	取組内容	担当課
「こうみん未来塾※」の推進	本市の豊かな教育資源・地域資源(大学、博物館等)とデジタル技術を活かし、子どもたちが本物にふれる機会をもてる「こうみんプログラム」を通して、子どもたちの探究心を刺激する体系的で連続した学びを創出し、感性や好奇心、創造力を育み、新しい発想をもって活躍できる力を育成する。	健やか育成課
地域の伝統文化の継承の推進	子どもたちに地域の伝統芸能などへの理解を進め、「知り・守り・育てる」機会を創出する。伝統文化の継承を進め、周知することでふるさと意識の醸成を図る。	文化スポーツ課
歴史資料を活用した体験学習の推進	市の所蔵する数多くの歴史資料を活用し、文化財施設や学校への出前講座・展示、体験学習を通じて、ふるさと意識や郷土への愛着心を育む機会を提供する。	文化スポーツ課
有馬富士自然学習センターを活用した学校教育支援	県立有馬富士公園の豊かな自然環境を活かし「有馬富士公園生態園(林の生態園・草地の生態園・水辺の生態園)」を学習の場とする学校教育支援を進める。	文化スポーツ課

主な取組	取組内容	担当課
図書館を通じた「学び」の支援の推進	子どもたちに本に親しむ機会や自主的な学びを行えるよう資料の提供及び人的支援を行う。また、調べる学習コンクールやイベントの開催、電子図書館※の活用、移動図書館※による館外サービスの実施等、多様な読書活動の機会づくりを行う。	文化スポーツ課
総合文化センターでの文化芸術の普及・育成の推進	総合文化センターでは、学校等において、文化芸術の鑑賞機会を設ける(アウトリーチ活動)ことで学齢期からの豊かな人間性を育む機会を創出する。	文化スポーツ課

「9 子どもと大人の「学び」が循環する関係づくり」の5年間の目標

項目	現状	目標 (令和8年度)	目標値の説明
こうみん未来塾※探究コースの小中学生の年間修了者数	—	200人	子どもの探究心を高める取組を進めるため、探究コース(令和4年度開始)の修了者数を目標として設定。探究コース10コース×参加者各20人
図書館見学及び移動図書館※サービス(定期巡回以外)を利用した小中学校の数	1校 (令和2年度)	7校	子どもたちの本に親しむ機会や自主的な学びの機会提供をめざす。小中学生の図書館見学や移動図書館※を活用した機会提供の件数を設定
学校訪問コンサート(アウトリーチ活動)を利用した小学校	18校 (令和2年度)	小学校全校	子どもたちがコンサート鑑賞等を通じて、本物の文化芸術にふれる機会を提供する。総合文化センターが、小学校へ出向いて行うコンサート等の鑑賞事業の件数を設定

※市立学校数は、幼稚園10園、小学校20校、中学校8校、特別支援学校1校です。(令和4年4月現在)



こうみん未来塾  
石ころ標本づくり～めざせ！石ころ博士～